

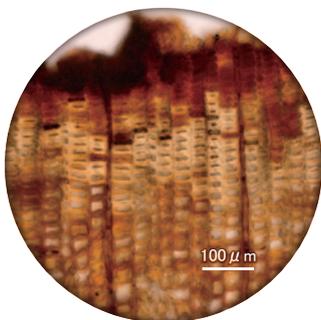
## 埋蔵文化財調査室ニュースレター

## 特集 遺跡からみつかる木製品

遺跡からは、さまざまな遺物が出土します。その劣化の度合いは素材の性質や土中に埋没していた環境によって大きく異なります。中でも、木材などの有機質遺物は地中に埋没しているうちに消失してしまうことが一般的です。しかし、極端な乾燥や低温、水に浸かった状態で空気と遮断された環境下では、菌類による腐朽や化学変化による腐蝕などが進みにくく、有機質の遺物が残る場合があります。旧サクシュコトニ川周辺に形成された北大構内の遺跡群は、地下水位の高い土中に包蔵されている環境下にあり、さまざまな木製品が残されています。木を利用した遺構や遺物の発見は、木材利用を通じた当時の人々と自然環境とのかかわりの一端を明らかにする大変貴重な資料です。本特集では、北大札幌キャンパス内から出土した木製品を取りあげ、当時の人々の暮らしと木の利用について紹介します。



(光学顕微鏡の写真: 農学研究院 佐野雄三氏 撮影)



▲樹種同定のための光学顕微鏡による観察(写真は木口面)



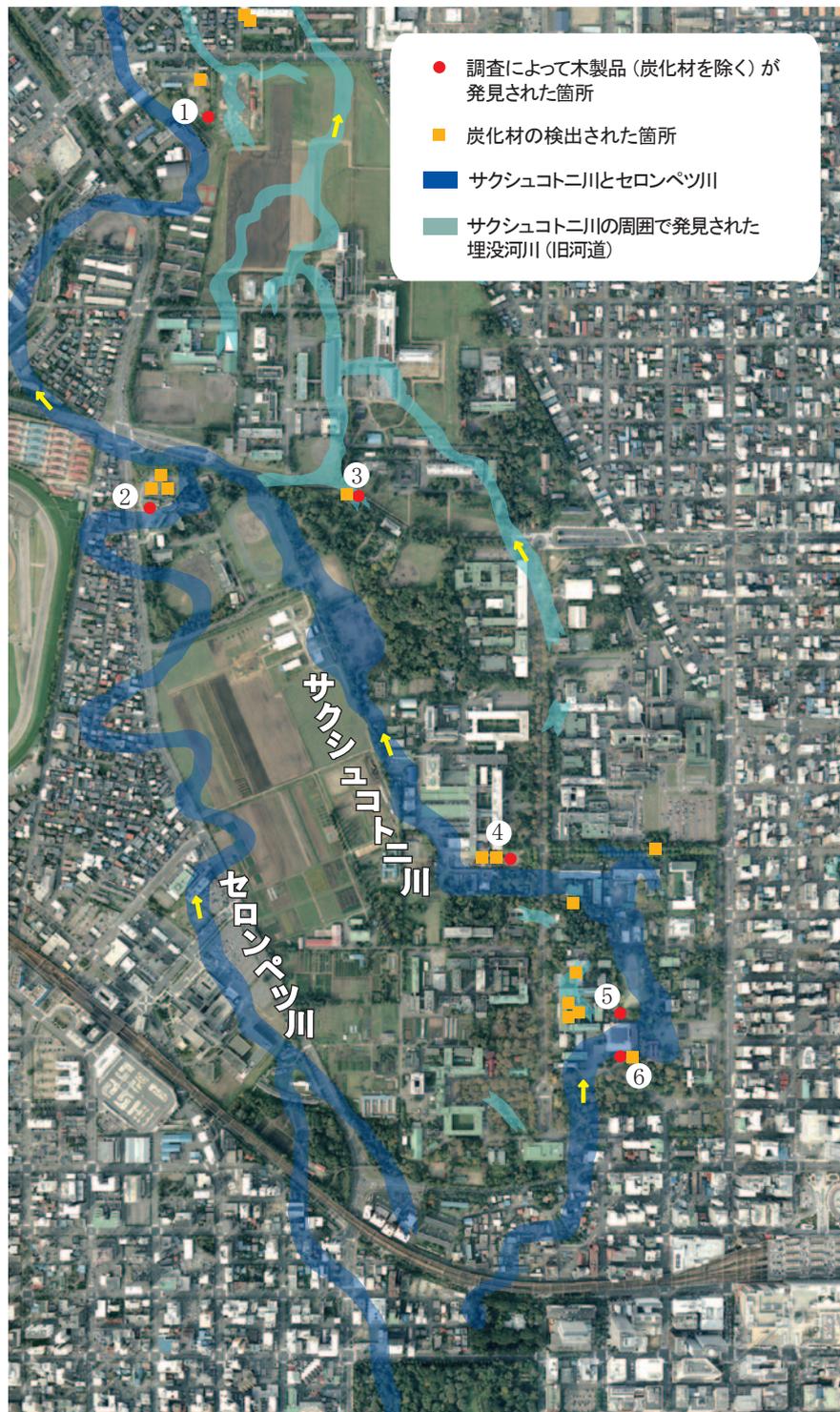
▲板状木製品(長40.0cm) 時期: 擦文文化～17世紀頃

▲K435遺跡 南新川国際交流会館外溝地点で発見された木製品の出土状況

南新川国際交流会館外溝地点では、旧サクシュコトニ川の支流とみられる埋没河川の一部が確認されました。川底からは、自然木、土器、礫とともに板状木製品が発見されました。この木製品の表面には板目の木目がきれいに現れています。さらに、その板目面には鋭利な刃物によって加工した痕跡が明瞭に残されています。樹種同定の結果、スギ(学名: *Cryptomeria japonica*)であることがわかりました。(つづきは3ページ「再加工された木製品」をご覧ください。)

# 木製品が出土した主な地点

札幌キャンパス内から生木の木製品が出土した箇所は6地点になります。その他に、炭化した木製品(炭化材)が検出される場合があります。その大半は、焼失住居址にともなう建築材です(焼失住居址について、詳しくは「ニュースレター 第5号」に紹介しています)。



## エルムトンネル地点から出土した木製品



### ▲丸木舟片(擦文文化前期)

丸木舟の軸先端部と考えられ、残存長で約132.0cmを測る。樹種はシナノキ、木取りは横木取り、舟全体にケズリ痕が残る。

(「札幌市文化財調査報告書65」)



### ▲カンジキ(擦文文化前期)

輪材は広葉樹、径2.2cmの丸木を素材とし、サキリ(滑り止めの横棒)にはアジサイ属を用いる。全長46.9cm、最大幅25.5cmである。

(「札幌市文化財調査報告書65」)



### ▲縦杵の未完成品(擦文文化前～中期)

1/4分割材をハツリにより成形しており、製作途中とみられる。長さ118.4cm、樹種はアサダ属。

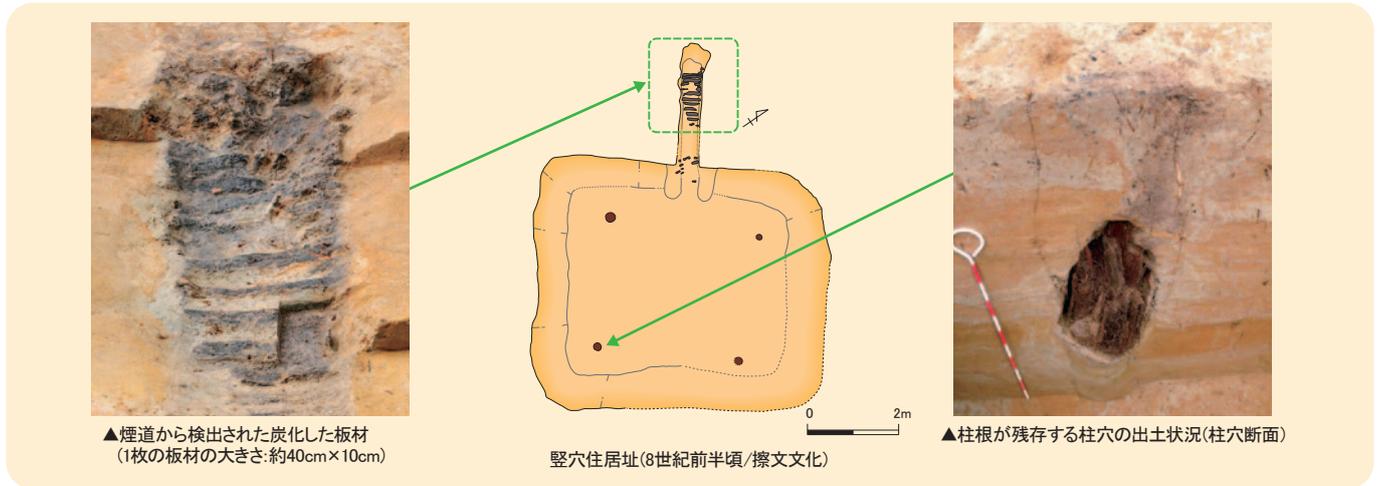
(「札幌市文化財調査報告書65」)

## 木製品(炭化材を除く)が発見された地点

番号	遺跡名・地点名	木製品の内容	時期	備考
①	K435遺跡・南新川国際交流会館外溝地点	板状木製品	擦文～17世紀頃	報告書作成中
②	K39遺跡・恵迪寮地点	杭、縦槌、中柄など	擦文文化	サクシュコトニ川遺跡報告
③	K39遺跡・エルムトンネル地点(第6次調査)	舟部材、漁撈具、縦杵、容器類、横櫛、編具、杭、建築部材、加工材、樹皮製品など	擦文文化	K39遺跡6次調査 札幌市文化財調査報告65
④	K39遺跡・工学部共用実験研究棟地点	杭、柱根、中柄など	擦文～17世紀頃	報告書作成中
⑤	K39遺跡・附属図書館北東地点	杭	16世紀頃	北大構内の遺跡13
⑥	K39遺跡・附属図書館増築地点	竪穴住居の柱根	擦文文化(8世紀頃)	報告書作成中

## ■ 竪穴住居址に残された「板」と「柱」

附属図書館増築地点から発見された竪穴住居址からは、遺存状態の異なる二通りの木製品が出土しました。一つは、カマド煙道を構築した粘土の中に並んで検出された14枚の炭化した板材です。炭化した木製品は腐朽菌の働きが抑えられ、生木よりもはるかに残りやすくなります。もう一つは、竪穴住居の柱穴4基にともなう柱材です。うち2本は、柱の先端(柱根)が形状を留めて発見されました。



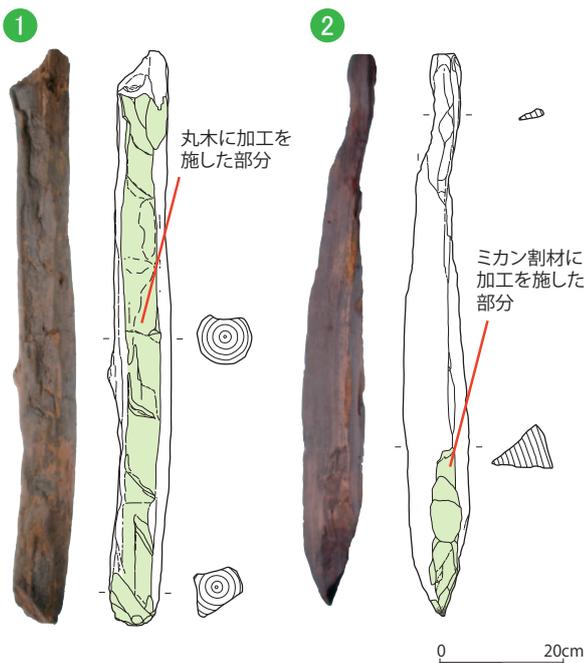
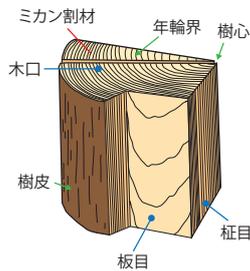
▲煙道から検出された炭化した板材  
(1枚の板材の大きさ:約40cm×10cm)

竪穴住居址(8世紀前半頃/擦文文化)

▲柱根が残存する柱穴の出土状況(柱穴断面)

## ■ 構築材にみる様々な木取り

北大構内で発見された構築材の木取りには、さまざまな材の取り方が観察されます。工学部共用実験研究棟地点の杭状木製品は、丸木に部分的な加工を施したもの、ミカン割材の先端部分を加工したものが発見されています。附属図書館北東地点では、板目の角材の先端を加工した杭(時期:16世紀頃)、恵迪寮地点やエルムトンネル地点では板目や柾目の角材・ミカン割材・丸木などのさまざまな木取りの棒状材先端に加工を施した杭が出土しています。



▲杭状木製品(工学部共用実験研究棟地点)  
1 樹種:ハンノキ属ハンノキ亜属 時期:擦文文化~17世紀頃  
2 樹種:ヤマブツ 時期:擦文文化~17世紀頃

## ■ 自然木の特徴を活かして作られた木製品

恵迪寮地点から発見された木製品の一つに木槌(きづち/ハンマー)があります。一般的に知られる木槌は、頭部と柄部を組み合わせて製作していますが、本製品は幹と枝がほぼ垂直をなす膝木を利用し、一木で作られています。頭部の木口面は潰れるように摩滅しており、打ちたいで使用されていたことが窺えます。石狩低地帯から出土する木製品には、このような木の特徴を活かして製作されたさまざまな道具をみることができます。

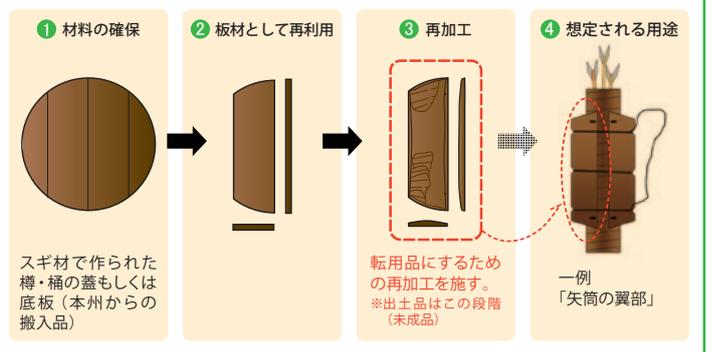


木槌(恵迪寮地点)長30.2cm  
樹種:イチイ 時期:擦文文化

## ■ 再加工された木製品

南新川国際交流会館外溝地点の板状木製品(1ページ写真)はスギ材で作られています。北海道域ではスギは自生しておらず、交易によって本州からもたらされたものと考えられます。本製品は本州で作られた樽・桶類の底または蓋の部材を転用し、再加工を施す途中のものとして推測されます。スギ材を転用して何を製作しようとしていたのでしょうか。その一つとして、矢筒の翼部の未成品であった可能性が考えられます。

製作工程(スギ製品を板材に転用し再加工を施す)



## ■ 木製品の保存処理

低湿地遺跡で発見された木製品は、そのままにしておくと乾燥により収縮・変形してしまうため、保存処理が必要です。保存処理には、基本となる次の二つの方法があります。一つは、木材内部の水分を合成樹脂に置き換えて、形状を強化・固定する方法で、PEG（ポリエチレングリコール）含浸法、糖アルコール含浸法などがあります。もう一つは、木材内部の水分の脱水をおこない、かつ木製品の形状を強化・固定する方法で、真空凍結乾燥法（フリーズドライ法）、アルコール・キシレン樹脂法などがあります。このような保存処理の工程を経て、乾燥状態で展示が可能になります。

糖アルコール含浸法による保存処理▶



## ■ 【お知らせ】平成22年度第4回調査成果報告会を開催します

調査成果報告会は、当調査室が行っている北大構内での埋蔵文化財に関する調査・研究の成果を、一般の皆様にも広くご理解いただけるよう普及・教育活動の一環として開催しております。今回は、遺跡から発掘された遺構や遺物を保存処理する試みについてもご紹介していきたいと思っております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### 開催について

日時：2011年 2月13日(日) 午後1時～3時30分  
会場：北海道大学学術交流会館 1階 第一会議室  
(札幌市北区北8条西5丁目正門から入って左手すぐ)  
参加：無料(申込み不要)

### プログラム

- 13:00 … 開会・あいさつ
- 13:05 … 高倉 純(北海道大学埋蔵文化財調査室)  
北大埋蔵文化財調査室による  
平成22(2010)年度調査の概要
- 13:25 … 遠部 慎(徳島大学埋蔵文化財調査室)  
K39遺跡先端バイオセンター地点
- 13:50 … 守屋 豊人(北海道大学埋蔵文化財調査室)  
K435遺跡南新川国際交流会館外溝地点
- 14:15 … (休憩)会場の展示資料の見学
- 14:30 … 荒山 千恵(北海道大学埋蔵文化財調査室)  
K39遺跡附属図書館本館増築地点
- 14:55 … 田口 尚(財団法人北海道埋蔵文化財センター)  
発掘された遺構・遺物の保存処理方法
- 15:25 … コメント(小杉 康 室長)
- 15:30 … 閉会あいさつ・調査室の見学(任意)

当日は  
直接会場まで  
お越し下さい!!



K39遺跡 附属図書館増築地点



K435遺跡 南新川国際交流会館外溝地点



K39遺跡 先端バイオセンター地点



## 編集後記

規格化され、豊かなモノにあふれた私たちの社会。遺跡に残された木製品には、木の特性を活かした木取りや加工痕の一つ一つに、当時の人々の知恵・技が凝縮されています。そこに魅了され、本誌をまとめました(荒山)。

北海道大学埋蔵文化財調査室ニュースレター 第10号

発行：北海道大学埋蔵文化財調査室  
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話：011-706-2671 FAX：011-706-2094

e-mail：jun-ta@let.hokudai.ac.jp

URL：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16697/maibun/index.html